

書評

齋藤英昭 著

Macintosh によるパワー・プレゼンテーション

井上 一知 (京都大学医学部外科)

齋藤英昭博士は私の敬愛する人物であり、私にとっては良き兄のような存在でもある。9年前に海外の学会でお会いした時に自然と意気投合して以来、現在に至るまで懇意にさせていただいている。齋藤博士は、4年前に術前術後管理の大作を出版されて大変好評を博したが、今回は「Macintosh によるパワー・プレゼンテーション」というユニークな本を出版され、その多才ぶりに改めて敬意を表する次第である。

近年学会発表におけるコンピュータ、特に画像処理に優れた Mac の利用は、われわれにとって必須のものとなってきた。しかしながら、その操作法をマスターするためには、いかに操作性に優れた Mac といえども、適切な指南書が必要であるのはいうまでもない。本書を開いて最初に感じたのは、まず見やすい、読みやすいということである。さらに本書には、齋藤博士のお人柄、読者に対するきめ細やかな配慮、そして、コンピュータを利用していかに人を魅了するプレゼンテーションを行うか、ということに並々な情熱を注ぐ著者の一貫した基本姿勢が、鮮やかに反映されている。

本書では、必要なソフトとその操作法がマウスのクリックに対応した形で箇条書きにされており、かつ実際のダイアログボックスとともに説明されているので極めて理解しやすく、初心者にとっても、本書の記載通りに操作を進めるだけで簡単に、短時間で発表準備を整えることができる。また操作法について熟知している研究者にとっても、1, 3章においてポイント、注意点として囲まれた部分を参照す

ることにより、コンピュータの能力を最大限に駆使し得たプレゼンテーションが可能となろう。

本書には、随所に珍談、こぼれ話として著者自身の失敗談などが挿入されており、とかく緊張しがちな学会発表にも、ユーモアのセンスと余裕が大切であるとの著者の思い入れを、垣間見ることができる。最近、ややもすると、スライドのバックグラウンドに logo を入れる風潮にあるが、logo を入れると肝心の発表内容のスペースがその分狭くなるので、本末転倒であるとする著者の主張は、まさしく当を得たものである。これは、コンピュータの使用に際しても、あくまでプレゼンテーションの本質、プレゼンターの基本姿勢を重んずる著者の毅然たる見識の現れであろう。プレゼンテーションは、人と人とのふれあいの場を提供し、かつその結びつきを深めるものであるとする著者の哲学が、本書の基本理念を構築しており、大いなる共鳴を禁じ得ない。レンブラントの『夜警』を前に乾杯しながら自らの成果を振り返り、先人の偉業に勇気づけられている著者の感動がそのまま伝わってくるように思える。本書は、医者、研究者としての真に心の通った Mac の指南書である。本書一冊で十分に事足れるものであり、是非、座右ならぬ、Mac 右において、利用したい力作である。明るく、楽しく、視野が広く、独創的でかつ心暖かい齋藤博士の今後のますますのご活躍を期待するとともに、本書が幅広く活用されることを切に祈りたい。

(B5 頁238 4,120円(税込) 1995 医学書院刊)